

令和5年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分 : 図書館活動における功績
2. 対象者 : 「中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト」事務局
(九州大学附属図書館 e リソース課リポジトリ係)
3. 件名 : 「中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト」の取り組み
4. 結果 : 採択

5. 理由 : 本件は、九州大学が2020年に発足させた「中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト」に係る活動である。九州大学附属図書館は事務局を担当し、デジタルアーカイブ「中村哲著述アーカイブ」(以下「著述アーカイブ」という。)の構築をはじめ活動の中心的な役割を果たしている。

九州大学附属図書館は、本プロジェクトの学内外をつなぐハブとなっており、著述アーカイブ構築のほか、実展示を行う館内スペース「中村哲医師メモリアルアーカイブ」の運営、初年次生対象の総合科目授業「中村哲記念講座」の支援等多面的に活動に関わり、また、教員や学生のほか、学外団体や関係者等を含めた多様な関係者と連携・協働を行っている。

特に著述アーカイブについては、NGO「ペシャワール会」(中村哲氏支援団体)と相互協力協定を結び、メディアとも連携して入手困難な独自性の高い資料を収集し、九州大学学術情報リポジトリを活用し公開している。中村哲氏直筆の設計図や音声メディア等、故人の活動の貴重な資料や記録も電子化されており、社会的にもインパクトの大きなコンテンツとなっている。このことは、2021年8月アフガニスタン現地の政変に伴う、アーカイブへのアクセス急増にも現れている。また、中村哲氏の活動の社会的意義を伝える記念講座も優れた教育活動と言える。

これらの取り組みは、ビジョン2025の「蔵書を超えた<知識や情報>の共有」、「新たな知を紡ぐ<場>の提供」、「知の交流を促す<人材>の育成」、それぞれに繋がる活動内容であり、図書館の強みを全面的に活かしたものであり、図書館機能のあり方を示すひとつの形として高く評価する。

以上のことから、本件は図書館と図書館員の役割について広く社会の認識を高めた取り組みとして「国立大学図書館協会賞選考基準」第4条第1項第3号に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。